

グローバル化改革：英語イノベーション

取組内容	取組実績
<p>小中一貫した教育のもと、各中学校区にネイティブ・スピーカーを配置することで、生きた英語を学ぶ機会を増やすとともに、外国の文化に対する関心や理解を深め、グローバル化に対応できる人材育成につなげます。</p> <p>また、音声指導重点校においては、9年間を見通した英語教育に取り組まします。</p>	<p>ネイティブ・スピーカーの配置：年間平均授業時間数 (25年度)小学校12.8時間、中学校8.7時間 (26年度)小学校20.8時間、中学校12.1時間 (27年度)小学校20.9時間、中学校11.6時間</p> <p>小・中学校英語教育重点校において、小学校1年生から音声指導(フォニックス等)を実施 小学校19校、中学校8校</p> <p>体験活動(イングリッシュ・デイ)の開催 小中学校 各1回実施 (25年度)小学校 170名、中学校 135名 (26年度)小学校 255名、中学校 229名 (27年度)小学校 372名、中学校 301名</p> <p>英語イノベーション事業による教員対象の研修会46回</p>

成果	大阪市全体	校長の意見の抜粋																																																																																																		
<p>❖大阪市英語力調査(英語能力判定テスト)の結果から見る取り組みの成果</p> <p>❖第3学年の経年比較(大阪市と重点校)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中学3年生</th> <th colspan="3">H25</th> <th colspan="3">H26</th> <th colspan="3">H27</th> </tr> <tr> <th>大阪市</th> <th>重点校</th> <th>差</th> <th>大阪市</th> <th>重点校</th> <th>差</th> <th>大阪市</th> <th>重点校</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均スコア</td> <td>267.9</td> <td>273.8</td> <td>5.9</td> <td>285.2</td> <td>291.8</td> <td>6.6</td> <td>298.7</td> <td>303.6</td> <td>+4.9</td> </tr> <tr> <td>英検3級以上の割合</td> <td>18.7</td> <td>19.3</td> <td>0.6</td> <td>24.0</td> <td>25.5</td> <td>1.5</td> <td>29.9</td> <td>33.2</td> <td>+3.3</td> </tr> <tr> <td>英検準2級以上の割合</td> <td>3.3</td> <td>3.1</td> <td>-0.2</td> <td>4.1</td> <td>5.1</td> <td>1.0</td> <td>7.1</td> <td>8.0</td> <td>+0.9</td> </tr> <tr> <td>高得点者層(401~460点)の割合</td> <td>6.3</td> <td>6.7</td> <td>0.4</td> <td>7.9</td> <td>10.0</td> <td>2.1</td> <td>12.3</td> <td>14.3</td> <td>+2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>❖単一学年追跡比較(27年度3年生)(大阪市と重点校)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">1年時(H25)</th> <th colspan="3">2年時(H26)</th> <th colspan="3">3年時(H27)</th> </tr> <tr> <th>大阪市</th> <th>重点校</th> <th>差</th> <th>大阪市</th> <th>重点校</th> <th>差</th> <th>大阪市</th> <th>重点校</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均スコア(点)※1</td> <td>218.6</td> <td>228.8</td> <td>+10.2</td> <td>266.5</td> <td>272.1</td> <td>+5.6</td> <td>298.7</td> <td>303.6</td> <td>+4.9</td> </tr> <tr> <td>英検3級レベル以上の割合(%)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>21.7</td> <td>23.4</td> <td>+1.7</td> <td>29.9</td> <td>33.2</td> <td>+3.3</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※1年生は340点、2年生は400点、3年生は460点満点</p>	中学3年生	H25			H26			H27			大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差	平均スコア	267.9	273.8	5.9	285.2	291.8	6.6	298.7	303.6	+4.9	英検3級以上の割合	18.7	19.3	0.6	24.0	25.5	1.5	29.9	33.2	+3.3	英検準2級以上の割合	3.3	3.1	-0.2	4.1	5.1	1.0	7.1	8.0	+0.9	高得点者層(401~460点)の割合	6.3	6.7	0.4	7.9	10.0	2.1	12.3	14.3	+2.0		1年時(H25)			2年時(H26)			3年時(H27)			大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差	平均スコア(点)※1	218.6	228.8	+10.2	266.5	272.1	+5.6	298.7	303.6	+4.9	英検3級レベル以上の割合(%)	-	-	-	21.7	23.4	+1.7	29.9	33.2	+3.3	<p>・25~27年度にかけて全体的に平均スコアは上昇している。</p> <p>・27年度の英検3級レベル以上の取得者は29.9%でほぼ目標を達成している。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ・スピーカーの配置は、その存在だけで子どもたちだけでなく教員に対しても大きな利点がある。 ・将来の教科化を考えた有益な取り組みである。 ・DVD等の教材とアドバイザーによる研修がうまく機能した結果、教員への英語に対するマイナスイメージは払しょくされている。 ・1、2年生からの実施は、低学年の意欲の醸成につながり、効果的である。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ・スピーカー小学校1学級あたりの時間数を増して欲しい。 ・英語教育を率先垂範して組織的に活性化させていく人材がまだまだ不足している。 ・公立中学校で英語力をつけようとするならば、各中学校に英語教員を1名加配し、その英語教員が校下小学校の英語の授業を担当する方法が一番である ・小学校6年生の出口と中学校1年生の入り口をどうつないでいくのかを明確にしないと、小学校の取り組みで終わってしまう。 <p>次期計画に向けた検討事項</p> <p>学習指導要領に則した適切な目標設定(国や府レベルの50%目標をどう考えるのか、どう縮めるか等)。</p> <p>教員の英語力・指導力の向上。</p> <p>採用：大学との協定による推薦枠の設定、計画的・恒常的に本市が求める英語教員の養成・育成・排出</p> <p>研修：協定大学と共同で小中一貫したカリキュラムの検討、その教育を担うことができる教員育成のための施策の研究・開発、e-learningの導入による教員の自主研修「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく伸ばすための多様な学習方法の導入。等</p>
中学3年生		H25			H26			H27																																																																																												
	大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差																																																																																											
平均スコア	267.9	273.8	5.9	285.2	291.8	6.6	298.7	303.6	+4.9																																																																																											
英検3級以上の割合	18.7	19.3	0.6	24.0	25.5	1.5	29.9	33.2	+3.3																																																																																											
英検準2級以上の割合	3.3	3.1	-0.2	4.1	5.1	1.0	7.1	8.0	+0.9																																																																																											
高得点者層(401~460点)の割合	6.3	6.7	0.4	7.9	10.0	2.1	12.3	14.3	+2.0																																																																																											
	1年時(H25)			2年時(H26)			3年時(H27)																																																																																													
	大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差	大阪市	重点校	差																																																																																											
平均スコア(点)※1	218.6	228.8	+10.2	266.5	272.1	+5.6	298.7	303.6	+4.9																																																																																											
英検3級レベル以上の割合(%)	-	-	-	21.7	23.4	+1.7	29.9	33.2	+3.3																																																																																											
	<p>重点校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英検3級レベル以上相当者」の割合及び「英検準2級レベル以上相当者」の割合において、大阪市全体を上回っている。 ・単一学年の追跡における「英検3級レベル以上相当者」の割合においても、大阪市全体を上回っている。 ・単一学年の追跡における平均スコアでは、大阪市全体と比べ、1年時に10.2ポイント高かったが、2年時で5.6ポイント、3年時で4.9ポイントと差が縮まっている。 																																																																																																			

英語イノベーションワーキンググループ まとめ

【現行施策の課題】	【現行施策の改善策】
<p><u>教員の指導力向上を図るため、どう取り組むのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝達研修では難しい。 ・授業のイメージを持てるようにするために、アドバイザーの存在は大きいですが、全部の学校に派遣することも難しい。 	<p><u>公開授業の参観など、授業を通して見るのが最も研修になる。授業の見通しが持てるようにすることが重要だ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーが訪問指導する学校に、近隣の学校の教員が参加できるようにする。 ・区単位で公開授業ができればいい。 ・各区に1校くらい、中心になってやる学校があるとよい。中心となる教員も、その学校には1人くらい当てていく。 <p><u>動画配信は今後必要だ。学校から出さなくても研修ができるようにできればよい。</u></p>
<p><u>教員の英語力を向上させるためどう取り組むのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が勉強する時間がないまま過ごしている人が多い。 ・中学校の教員のうち、部活動の指導をしている教員や、小さい子どもがいる教員では長期間の留学ができない。 	<p><u>学び続けられるしくみを整えることが必要だ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の大学に来る留学生との国際交流などとコラボすることも考えると良い。 ・教員が、中学生レベルの英語で良いので、C-NET と、できるだけ話をする機会を持つようにする。 C-NET の人数不足、教員の空き時間不足 ・学期に1回でも、区単位で、C-NET と交流する機会を設定する。 ・E-Learning など自己研鑽する機会はたくさんある。学びの機会の情報を事務局がまとめてあげると良い。 ・英語村など気軽に行ける英語の環境があればよい。 ・(自己研鑽など)努力した人が評価される制度を整えたい。(留学などに)補助金が出せなくても、休みがとりやすい制度は整えられるだろう。
<p><u>C-NET の活用をどう考えるか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任とC-NET がTTで授業を行うようにしているが、C-NET 中心で行っている学校もあるようだ。やはり、担任が中心になって行るのがよい。 ・中学校は、英語科の教員が授業を行うことがよい。ただし、英語力・指導力をさらに身に付けることが前提だ。 	<p><u>C-NET 主体で授業をするのではなく、C-NET をいかに活用するかである。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、小学校5.6年だけだが、今後、3.4年生にも降りてくることから、C-NET をつける必要がある。 C-NET を増員するか、中学校につけているC-NET の比重を変えて、小学校に多く使えるようにするか。 試算が必要。 <p><u>中学校の教員が小学校に行って、TTで授業をする回数を増やす。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で行っている外国語活動の様子が分かるので、小中連携にもなる。 ただし、中学校の英語科教員全員が、小学校での英語の指導ができるわけではない。指導力の向上が前提だ。
<p><u>小中連携をどう進めるか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「書く」が次のステップであるが、同時に中学校の英語嫌いの一番の原因になっている。 ・小学校の教科化というと中学校の前倒しになると思うが、文科省が決定したものはまだ出ていない。 ・国から出てくるのには小学校1,2年生ものがない。 	<p><u>中学3年生までに学ぶ語彙や内容を念頭に置いて、小学校にも「書く」「読む」を入れた、9年間を見越した英語のパッケージ＝「スタンダード」を作って、スタートさせておく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の英語教育の方針を基本としながら、小学校1年生からの英語をどう3年生につなげるかは大阪市で考えないといけない。

<p><u>小学校低学年からの英語教育をどう進めるか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材「ドリーム」を使っていくが、子どもが主体的に係る授業にするには教員の関わりが大事になる。 ・学校は、新しいものに手が出しにくい状態。 ・旧重点校も、これまでの重点校でやってきていた指導案+教材を使って指導した方がいいのか、「ドリーム」を使ってした方がいいのか。 ・重点校は3年間の積み上げがある児童にもドリームのレベル1をやらせるのは疑問。 	<p><u>【再掲】中学3年生までに学ぶ語彙や内容を念頭に置いて、小学校にも「書く」「読む」を入れた、9年間を見越した英語のパッケージ＝「スタンダード」を作って、スタートさせておく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ドリーム」だけでなく、これまでの「ジングル」や絵本などの教材を学校に配付してほしい。 ・小学校の教員は、指導案さえあれば、何とか授業がイメージできる。長期的に使える「指導案」+「教材」を整備してほしい。 ・各学校のスタートに向けて、大阪市としてどのようにするのか、明確にしていく必要がある。その一つとして、次期学習指導要領の改訂内容も踏まえ、小学校段階での学年別の指標形式の目標となる「Can-do リスト」等を検討していく。
<p><u>指標について、今後どう設定していくのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての英語を目指しているのに、その指標が「読む」「書く」にとどまっている。 	<p><u>今後は、指標を文科省が実施予定としている「英語科の全国学力・学習状況調査(4技能を測る)」の活用も検討していく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各中学校の英語科教員の「聞く」「話す」技能の試験官としての研修も必要になる。
<p><u>スカイプを使った海外の学校等との交流ができないか。</u></p>	<p><u>実現に向けて検討していく。</u></p>